



金(マネー)ではなく金(ゴールド)がモノを言う時が来る!

古くは大英帝国が七つの海を制したのも、近代日本が中国、ロシア、朝鮮半島、南アジア、パラオ等太平洋地域に進出したのも「分不相応」、すなわち政治バブルである。

戦後のアメリカの軍事、経済世界覇権もつかの間で、オバマ大統領以降、トランプ、バイデン大統領とも「最早アメリカは世界の警察官ではない」と宣言している。

中国など計画経済に推され、アメリカの政治、経済バブルは崩壊一歩手前である。

1944年のブレトンウッズ協定で決まったドル基軸と金とドルとの交換制に基づく金本位制の下で主要国通貨は対ドル固定相場制となり、アメリカはもとより、どこの国の通貨も国債発行も金保有高に制約されることになった。

フランスをはじめ欧州諸国が累積する貿易黒字で金購入を加速させた為、アメリカの金保有高が激減、そこへ朝鮮戦争やベトナム戦争による資金需要が高まった為、アメリカはついに1971年8月15日のニクソンショックでドルと金の交換制廃止をせざるを得なくなった。

以後今日までアメリカ主導で歯止めなき金融緩和バブルが続いてきた。

今日コロナ禍とウクライナ戦争でインフレが加速した為、アメリカをはじめ日本を除く先進国はすべて利上げ政策でインフレと戦っている。

やがてインフレが収まれば、引締め政策は本来の緩和政策に戻る。

ではニクソンショック以来世界の基軸通貨ドルの価値はどうなったのだろうか。

ニクソンショックの一日前の金価格はドルとの交換レートである1オンス35ドルであった。

今日の金価格が2,000ドルとするなら金は57倍も値上がりしたことになる。

金は国債と違ってゼロ金利、そしていつも同じ輝きで不変である。

実は不変の金の価格が上がったのではなく、ドル価値が52年間で57分の一に減価したのである。

ジム・リカード氏が言うように、2024年末までに金価格が1オンス5,000ドルになると言うことは、ドル通貨バブルがさらに続くということである。

バブルは崩壊するもの!

FRB(米連邦準備理事会:アメリカの中央銀行)やECB(欧州中央銀行)はソフトランディングでインフレ(バブル)を収拾しようとしている。

金融政策によるバブル対策は、痛み止めのカンフル剤と同じで、一時痛みを忘れさせるだけで痛みの病因を治すのではない。

ニクソンショック前の金本位制の下ではバブルは起き得なかった。

FRBは金融政策でバブルを押さえながら時間を稼ぎ、密かに金本位制に移行する準備をしている。

私が来週完成予定の小冊子 Vol.132 で2026年が政治経済の大転換期になると述べているのは、IMFが2025年10月に、IMFのSDR(特別引出権)と金の交換制を決めることでバブル経済体制は終焉し、金本位体制に移行するからである。

同年米軍は日本と韓国から撤退、アメリカのアジア軍事覇権は終わり、又バブルベースのアメリカの経済覇権も終焉する。

日本がどうなるかは、小冊子 Vol.132 を熟読して下さい。